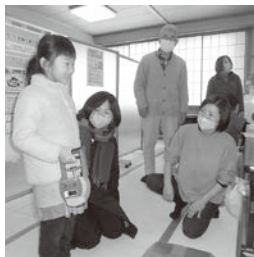


地域が繋がる新春サークル発表会 令和7年2月1・2日



岡田地区の文化祭「新春サークル発表会」(実行委員会主催)が、2月1日と2日、岡田公民館、岡田福祉ひろばで行われました。公民館、福祉ひろばを利用する団体や自主サークル、町会などの団体のうち13団体の展示や9団体のステージ発表がありました。また、手打ちそばの振る舞いや岡田希望の家によるポップコーン販売、健康づくり推進員会の健康チェックもあり、二日間にわたり、多くの来場者で賑わいました。

溝池のほとりにある田溝体験館(旧農林漁業体験実習館)で活動しており、製作した壺や皿、花瓶、木製プラントーなど、丁寧な作られた作品が並んでいました。

福祉ひろばの活動紹介展示

岡田陶芸クラ



展示の常連団体のフォトサークルあるふす、岡田写真友会、岡田まちおこし協議会切り絵教室、神沢絵手紙教室は今年も力作揃いで、巳年にちなんで蛇も題材に多く取り上げられていました。岡田小学校、岡田保育園の子どもたちの工作や活動も紹介されてお

作品展示

岡田みんなのひろば『ラフ』は今回が初展示で、「ねんど細工で岡田を作ろう!」をテーマに、信州大学の学生との共同イベントで製作した岡田公民館周辺ジ



では、利用者の皆さんの作品のほか、様々な活動の様子が大きな模造紙に紹介されていきました。

ステージ発表



今年が初参加のサークルが3組。帽子を目深にかぶったダンディーなうたごえ喫茶の会は往年のヒット曲を披露。岡田町ミュージックケルクラブは総勢19名でのチームワークの良いハンドベルを演奏。岡田地区健康づくり推進員会は毎年展示のみの参加でしたが、今回はステージ上で体操を交え健康づくりの大切さを伝えました。常連のパフォーマンスも

暖かくなった新春サークル発表会でした。



ほどよくお腹もすいたところで1階では三水会の皆さんが朝から準備された手打ちそばが振舞われました。雪のちらつく寒い一日でしたが、温かな山菜そばをいただいて身も心も暖かくな



圧巻でした。太極拳ひまわりとはまなすの優雅な身のこなしに目を奪われ、ハンドベルすずらの会の素敵な音色に耳を奪われ、岡田太鼓連の迫力ある演奏に体が震えました。松本サブ

館報

おなかだ

おどなもゑどもも
お互いにあいさつしよう

岡田ぼっとニュース

これからの稲作は

● 伊 深 ●

新しい年を迎え、四月からは本格的に水田作業が始まります。

私の家でも自家消費野菜を年間十数種類と、水田26アール程を耕作しております。

この様な作業をやりながら、約十年程前から岡田地区にあります農業の受託組合で仕事をしています。以前からコンバインによる稲刈りは行われていましたが、平成27年頃より水田を借り受けて組合として耕作をする様になりました。そして毎年面積が増加してゆき現在約28ヘクタール程を耕作するまでになりました。今年は更に面積が増える予想です。

何故そうなっているのか、様々な要因がある様ですが、中でも自分が年齢で耕作が出来ない、身内が水田はやりたくない、あるいは耕作しても収益にならない、等が大きな要因の様です。又機械的には、大型トラクターや大型田植え機、大型コンバインの作業等

短時間で作業が終わってしまうので、それを見るとやる気を無くしてしまう事があげられます。

この様な要因で組合の耕作面積が増えていくなかで、考えなければならぬのが、これからの耕作をする人員の確保や、大型機械の更新などが上げられます。そこで数年前よりJAの指導により組合を法人化して会社として運営してゆく事になりました。

岡田地区以外にもこの様な法人が多くある様なので、JAを通じて情報を得ながらより良い運営をしていかなければと考えています。それと共に地域の人々の協力が大変重要な事でもあります。

私も年齢ですので、あと何年会社に在籍出来るかわかりませんが、出来る限りの協力をして次代に送りたいと思っています。

(伊深 大久保 隆雄)



冬の田園風景



趣味を広げる コーヒー講座



2月15日(土)岡田公民館にてコーヒー講座が開催されました。信州大学サークル「ボヘミアン珈琲」4人の皆さんによる、昨年に引き続いて2回目の開催となります。スクリーンでコーヒー産地、精製方法、焙煎度などが紹介されました。

コーヒーはドリッパーを使ってグアテマラ豆は浅煎りウォッシュドで、メキシコ豆は中煎りナチュラルで、ブラジル豆は深煎りナチュラルで入れて振る舞ってくれました。

参加者はコーヒーの入れ方の質問をしながら3か国の美味しい飲み比べをして、楽しい2時間を過ごしました。

ボヘミアン珈琲は信大生が中心に運営する「お店を持たないカフェ」で、毎週木曜日昼休みに信州大学の広場で通称「昼ボヘ」でコーヒー(無料)を振る舞うほか、4月～12月の日曜は朝8時から浅間湯芽市でも出店しています。

植野貴登さん(人文学部3年)は、コーヒーを通じて地域の皆さんと交流を深めるため、これからも続けていきたいと話していました。



昨秋九月末で四十四年半の教師生活を終了しました。最後の半年は豊科高校に勤務し蟻ヶ崎・豊科両校共教え子にバトンを渡しました。教え子達は良く頑張っています。次に繋げていくことの難しさも感じているところです。

生活雑記

次世代に繋ぐ

松岡 大澤 一仁

書道部の生徒の中には白馬や木曾などから往復四時間もかけて登校する者もいて、殆ど休みなしで活動してきました。昭和世代の考え方に批判が向けられることもありますが、中

途半端な努力では夢の実現は叶いません。私はいつも「やり切れ」と言ってきました。目標に向かってやり切った子は、その後の進路も迷いなく進み「克己」を合言葉に努力を重ねています。

今後地域に移行される部活動は時代によって指導法や活動内容が変わっていくでしょう。その中で生徒達が達成感や充実感を得られ、心身共に大きくなれることを願い地域みんなを支えていければと思います。